法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

中村先生の思い出

佐久川, 政一 / SAKUGAWA, Seiichi

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
沖縄文化研究 / 沖縄文化研究
(巻 / Volume)
16
(開始ページ / Start Page)
69
(終了ページ / End Page)
72
(発行年 / Year)
1990-03-20
(URL)
https://doi.org/10.15002/00002707

Hosei University Repository

中村先生の思い出

佐久川　政　一

私は、これまで中村先生に二度お会いした。最初は一九七三年の夏、伊東光晴教授に御同行を願って梅ケ丘のお宅にお訪ねした時、二度目は、同じ年の秋、中村先生が文部省大学設置審議会の委員として沖縄大学の調査に来られた時である。

たった二度の、しかも、二時間の面談ではあったが、先生との出会いは、沖縄大学の歴史に深くかかわりのある事なので敢えて筆をとることにした。

その歴史とは沖縄の日本復帰に当っての沖縄大学の存続闘争である。

沖縄大学は米軍統治下の一九五八年琉球政府の認可を得て設立された私立大学である。復帰以前沖縄には、沖縄大学の他コザ市（現沖縄市）に国際大学というもうひとつの四年生私立大学があった。文部省は復帰の際、沖縄にあった二つの大学が設置基準に足りないということで、ひとつに統合するこ

Hosei University Repository

とを強行してきたのである。そして、統合案を拒否して独自存続をうちだした沖大に追いうちをかけるように政令で対抗してきた。

この文部省の措置に対し学内では統合派、独立存続派に分かれて、喧々ごうごうの大論争が巻き起こった。当時学長をつとめていた私は、教授会の投票で決着つけるため会議を招集した。議決の結果は三十六名の教員中くしくも十八対十八、五分五分であった。統合派、存続派ともそれぞれの立場を認め、互いに干渉しないことを確認し合ってそれぞれの道を歩むことになったのである。

その後約二年に及ぶ存続闘争は困苦を極め、とりうるあらゆる手段を講じたが、結局大学認可申請という形で結着をみることになった。新しく出直すという意味の認可申請とはいうものの、自主独立存続派教員の十八名を基礎に五十名の教員組織を整理しなければならなかったが、幸い沖大存続に賛同する大学人は「守る会」を作るなどして支援して下さった。伊東光晴教授は経済学科、亜大の鈴木薫教授は法学科の教員構成に力をかして下さった。

私が最初に先生にお会いしたのは、こうした沖大の大きな変わり目にあたる一九七三年の夏のころであった。伊東光晴教授は、当時大学設置審議会の有力メンバーであった中村総長にお会いしてお願いした方がよいとすすめてくれた。伊東教授はまた、「中村総長は、心の大きい人で頼まれると引受ける人だ。団交総長と異名をとる程に豪放磊落の人だ」といっていたが、日本最南端の潰れかかったミニ大学の三〇代の若僧学長の私はおそるおそる梅ケ丘の先生の門をくぐったのを覚えている。

奥様が出むかえてくれた。玄関の壁には数枚の絵がかかっていた。よく見ると沖縄の風景ではないか。赤瓦の屋根！闘牛の絵！招じ入られた書斎の壁にも懐しい沖縄の風景の絵が数枚あり、まるで私達を歓迎してくれているようだった。私の不安は一遍に吹き飛び、数年来の知己にお会いしたような親近感を覚えた。

私は心がほぐれた勢いで「これらの沖縄の絵は先生がお画きになったんですか」と訊ねてみた。「そうだ」とお答えになったので、私は「先生はプロですね」と申し上げたら「僕の友人達のなかに中村さんは画家になった方がよかったという人がいる。まるで中村の政治学はたいしたことはないといわんばかりである」と、相手の不用な構えを解きほぐすような言葉を返してくれたのがありがたかった。こうした会話を交わした後、沖縄大学の状況をお話し申し上げ、沖縄大学の認可に御協力賜り度いとお願い申し上げて、先生のお宅を辞したのが思い出される。

それからしばらくして、中村先生は大学設置審議会の調査団四人のメンバーの一人として来学された。たしか草色のカバンを肩にノーネクタイのラフな服装であったように記憶している。中村先生らしいと思った。

中村総長以外の団員のお名前は記憶にないが、学長室で対するや否や厳しい調子で文部省の方針に反して大学運営を進めていることは許せないと詰問してきた。ところが中村総長は、終止にこにこ微笑をたたえながら要旨次のようにおおせられた。「沖縄は米軍統治下で苦労してきたんだ。沖縄大学

Hosei University Repository

も米軍統治下で生まれたもんで復帰したからといって潰すことはせずに育てるべきだ。政令に反して学生募集したことはせっぱつまってやむを得ずした筈だ。責めることはどうかと思う」と。そのお言葉に私は涙が出る程嬉しく、感銘を受けたことを今でも思い出す。

沖縄大学は一九七四年二月に文部省から正式に認可を受けた。昨年は創立三十周年を祝い、創立以来最も安定期をむかえている。種々の教育改革を試み、全国的にも注目されるようになった。

復帰という大きな世替りに揺れ動いた沖縄、そしてその世替りの渦の中で沖大も存続の瀬戸際に立たされていた時機に、中村先生と出会えたのは、私には偶然のようには思えない。

故茅誠司先生が〝沖縄病〟という言葉をつくりはやらした。一度沖縄にインボルブしたら沖縄に取りつかれ、沖縄から離れられない心的状況をいうらしい。中村先生もそのお一人ではなかろうかと考える。

今後とも先生が御健康で沖縄を見守って下さるように念じてやまない。